

情報誌



表と裏のあいだに。

これまでに経験したことのない状況の中、当たり前だった日常がこんなにも簡単に変わってしまう。誰もが戸惑いを覚え、不安に傾く。ただそれは、逆に言うと、何が本当に大切なのかを感じ、見つめ直す時期なのかもしれない。私たちはここで沢山の表現者やお客さまの心が震え響き合う瞬間に立ち会ってきた。だからこそ、この先に続く道の新たな景色を信じたい。生の舞台芸術を安心して安全に届けていくこと、これからもその実現に向けて行動します。

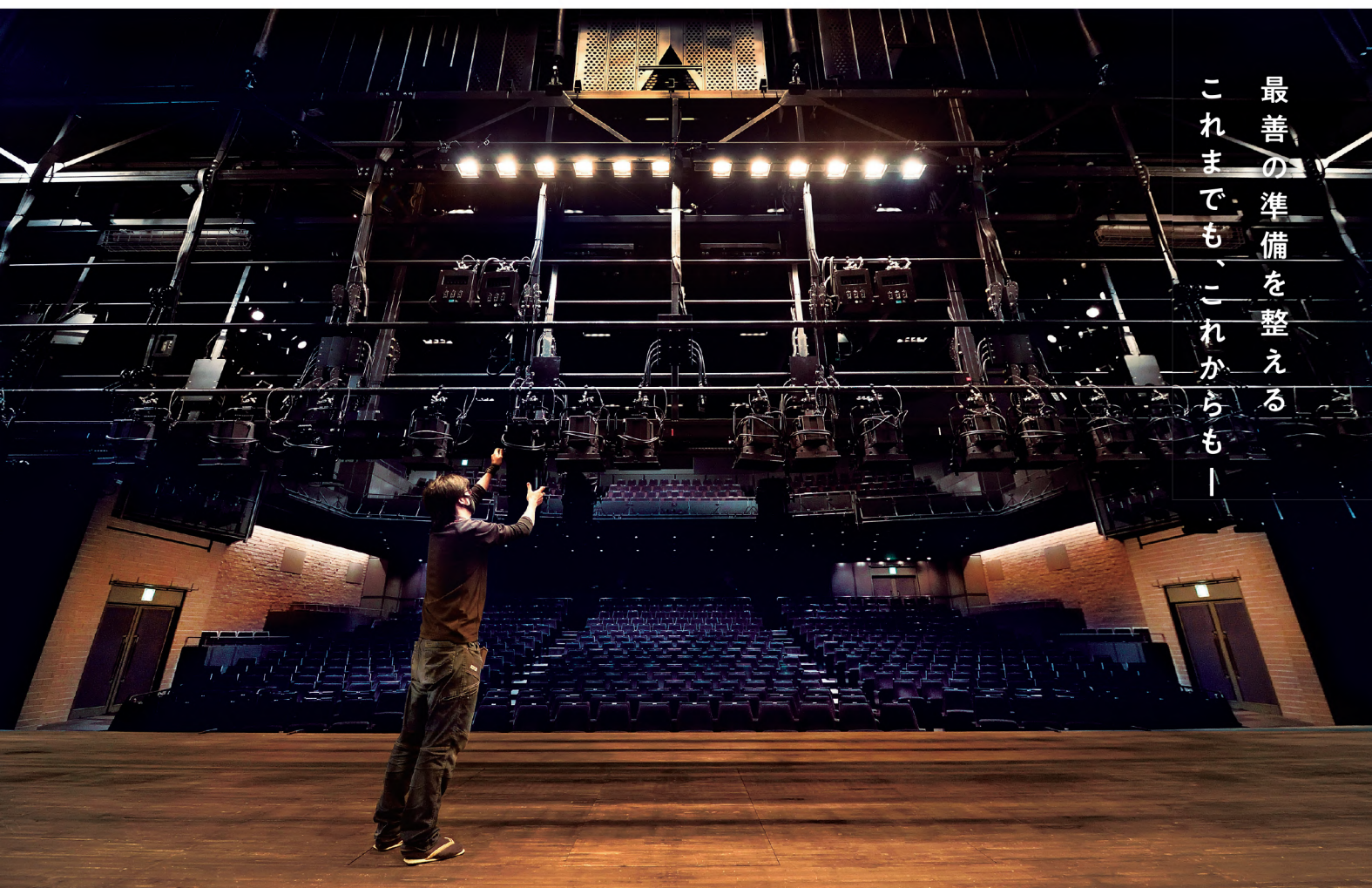
情報誌



CONTENTS

いま改めて思う、私たちにとってのアート
～舞台芸術をめぐるそれぞれの捉え方～

地域とアートのステキな関係「ギラダンス」
ピックアップ!STAGE&MUSIC



最善の準備を整える
これまでも、これからも――



来ていただいた皆さまが、
安心を感じるホールへ

Art for us

いま改めて思う、 私たちにとってのアート

～舞台芸術をめぐるそれぞれの捉え方～

Music / Live / Performing Arts

観劇やライブ鑑賞など、

生の舞台芸術に触れる機会がなくなり早数ヶ月…

みなさんは毎日をどう過ごし、

日々何を感じていますか？このような状況下で、

これから先の舞台芸術にどんな意味を見いだせばよいのか。

アーティストや市民の皆さま、

さまざまな立場にある人たちの考えや思いから、

舞台芸術の持つ可能性を探ります。

Next Page

数々の演劇公演やコンサート・ライブイベントの

中止や延期が相次ぐ状況の中、

市民の皆さまからも

たくさんのお寄せいただきました。

その一部をご紹介します。

《 中面左ページへ 》

01 H ZETT Mさん

｜ピアニスト・エンターテイナー・音楽家｜



音楽とは何であるかを考えるに中々その答えにたどり着かないのはそれぞれにそれぞれの音楽があるからでありましょう。ある人が「この曲は名曲だ!」といったも違う人が名曲と思わなかったらそうなのでありまして見ているものは方々で別々であり強要する事はナンセンスなのであります。人間は繊細であり複雑でありまして色んな事を思ったり思わなかったり行動したりしなかったりするものです。そんな中、はて?空間に響く音に身を委ねる時間を持つ事は何を意味するのでしょうか?人はそこに何を見、何を聴くのでしょうか。私は思うに音楽は現実とを繋ぐ装置として機能する一面があるように思います。誰かしらが何かしらを聞くというその行為。そう考える時に私は、私の出来る事として、強弱、均一性、構造、異質さ、等を意識して音を出す事を心がけ、追求していきたい、と思います。

04 ケラリーノ・サンドロヴィッチさん

｜ナイロン100℃主宰
劇作家・演出家・映画監督・音楽家｜



演劇人としての自分は、今、思考しながらも、ひたすら事態の終息を待っている、ただそれだけです。自分にとっては、生の観客の前で生の舞台を上演することだけが演劇の喜びなので。その為には、客席と舞台上が共に安心して上演に向かえるようになるまで待つしかありません。再開の時、どんなものを創作したいか／できるか、を考えながら。一方で、できるならこの時期、自分らしい、可能なら自分にしか出来ない「演劇的な何か」を発信したくも思いますが、「演劇的な何か」は演劇ではないし、発信する私も、演劇人とは異なる位相に存在するのです。「演劇」と「演劇的な何か」は、だから較べても仕方がない。仕方がないけれど、どちらを取るかと聞かれたら、一瞬の躊躇もなく前者を選ぶでしょう。

07 朝永侑子さん

｜ハーピスト｜



程度の差はあれど、今きっとこの世の中でコロナの影響を受けていない人は一人もいないと思います。大人の働き方はもちろん、我が家の2歳児でさえ数ヶ月間公園で遊べないという、彼にとって大変な出来事が起こりました。文化芸術においては、ご存知の通り殆ど全ての公演がキャンセルされ大打撃を受け、芸術に携わるもの皆が自分たちのあり方を少なからずとも考えた時間だと思います。ただ言える事は、自粛期間中にお家で音楽を聞かなかった人、本を読まなかった人、テレビを見なかった人、誰かが作った“作品”に一切触れなかった人はいないのではないのでしょうか。この未曾有の事態が収束した時に、再び心を震わせる生の音楽を響ホールという空間で共有できる幸せを心から楽しみにしております。

02 金子三勇士さん

｜ピアニスト｜



世界中でコンサートの実施が困難な今、ピアニストとして、音楽家として、そして一社会人として何ができるのか、また人々が自分に求めているものは何か。それをしっかり考え、諦めずに新たな挑戦を続ける事こそがこの事態を乗り切るためのヴァクチン! そう信じて、TwitterやYouTubeといったコンサート以外の形で音楽を発信しています。その中で直面する、21世紀を生きるクラシック音楽家としての新たな発見や課題も沢山あり、今後の活動の鍵になると信じています。ウィルスが収束した時には音楽愛好家の皆さまと、僕たち演奏家とで今まで以上にコンサートが開催できる喜びを実感し、分かち合える事を心から願ひ、誰よりも楽しみにしている一人です。次回は是非、ホールでお会いしましょう!

05 セレノグラフィカ 阿比留修一さん

｜ダンサー｜



生きることの楽しみ、人と集うこと、皆んなで一体になること。飲食店で、花火大会で、劇場で、野山で…そう、密の固まり。当たり前のように身近にあった、密の重なり。春からのほんの短い間に、ソーシャルディスタンス、アフターコロナ、リモートワーク、オンラインレッスン…新しい言葉が、長い間使われていたかのように普及して、不思議な感覚に見舞われている。どうしても、違和感を覚えてしまっている自分がある。と同時に、人が身体を伴って生きているということ、改めて実感する貴重なチャンスなのではないだろうかとも思う。心と身体がつながっている実感。それをダンスという世界で深めていきたい。人間の本質を見失わないために。

08 内藤裕敬さん

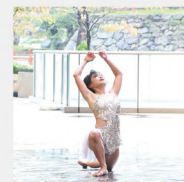
｜南河内万歳一座座長
劇作家・演出家・俳優｜



仕事を変えた。引越して知らない街での暮らしが始まる。新しい靴を試してみた。転んで膝を強く打ち青アザが痛い。飲み過ぎた。食べ過ぎた。とにかく「いつも」と違う現実の前に居る。それだけで私達は動揺する。迷う。ついさっきまであった「いつも」と距離ができたことに不安となる。そんな時、「いつも」は考えないことに思いをめぐらせる。「いつも」の私では居られない「今」だからこそ生まれ出る世界観に自分でも驚く。「いつも」とは違う。ほんの少しでも。そんな現実と向き合う時、私達の想像力が試される。現実には圧迫されて想像力まで貧しくならないように。こんな現実だからこそ豊かな想像力で立ち向かいたい。芸術とは、現実が生み出し育むものだ。喜びの、悲しみの、憎しみの、絶望の、希望の…。私達は、こんな現実の中、芸術と共に在る。そう強く思う。距離は近い。いつも、すぐそばに在る。

03 北村成美さん

｜なにわのコレオグラファー・しげやん
赤シャツダンサーズ総監督｜



たちまち明日から踊る場を失ってしまう恐怖。いやしかし、どんな状況でも踊り続ける信念。かくして、毎日のダンス動画配信「しげやんと踊ろう!!」は始まりました。自宅を稽古場および舞台とし、自粛生活を送る中で、日々を生き抜く人間の内にダンスがあること、表現活動が生きるために必要不可欠であることを体感しています。困難だから出来ないのではなく、困難があるからこそ湧いてくる想像と創造。楽観的だけど屈しないレジスタンス。知恵と工夫と心意気。それらが新しい表現を生み、時代を切り開くと信じています。たとえ開けられない事態にあっても、そこに劇場があること。それは私たちの希望の城。精神的な支柱なのです。

06 セレノグラフィカ 隅地業歩さん

｜振付家・ダンサー｜



「不要不急」という言葉が定番フレーズになって久しい中で、芸術の果たせることは何だろう、と自問せざるを得ません。肉体や精神の健康を支えるのが医療であるならば、身体や心の元気を支えてくれるのが芸術だろうと自答しています。映像に見入って時間を忘れることもあります。生の良さは代わりが利きません。五感をフル稼働できる細胞の喜びを、私たちが知っているからだと思います。「距離」によって隔てられることは、触れ合ったり寄り添ったりするのを諦めることではなく、その意味合いをじっくり問い直せる機会なのでしょう。孤独かもしれないその思惟が、創作の新たな扉を開いてくれると予感しています。

09 中川賢一さん

｜ピアニスト｜



私は2011年の東日本大震災の時に仙台の実家におり、被災しました。避難所にはピアノがあり、音楽家なのだから早速ピアノを弾いてそこに居る方を勇気づけよう!と思いました。すぐ、その考えはなくなりました。沢山の犠牲者が出た地震。親戚知り合いの安否を訪ねる電話をしたり、様々な情報を得る為にラジオを聴いたり、騒然としている避難所。その時、生の音楽のあるべき意味を問いました。その1ヶ月後から、避難所を中心に60回以上慰問演奏に行きました。一言で涙を流す方もいました。テレビ、ラジオで流れる音楽とは違うものだったので。生の演奏は、あるべき時にあると凄く大きな意味を持つということをととても感じました。今もその考えは変わりません。その時が必ずやくると信じています。素晴らしい響ホールで音楽を奏でる日を。

Public opinion

60代 女性

今まで当たり前のように日常に溢れていた演劇が「緊急事態」の前では、まるで無視されたかのように遮断されました。時々しか観劇しない私でさえ、色褪せた日々が憂鬱です。演者の方々の日々届けられない思いはどこに向けたいいのだろうか？もうすぐです！次は大爆発させてください。楽しみにしています。

Public opinion

30代 女性 会社員

さまざまな舞台が中止になり悲しかったですが、日常は過ぎていき、舞台を見に行かなくても生きていけるなと思いました。ただ、舞台を見た時の緊張感やワクワクは日常になく、舞台は私の生活に日常で感じられないものをプラスしてくれる存在なんだと認識しました。再開できる日を心待ちにしています。

Public opinion

10代 女性 学生

音楽家の方々もこの状況で苦しんでいる人を応援しようと、新しいことに挑戦してくれたり、この状況だからこそ応援メッセージを発信してくれたりしています。これは単に勇気づけられるだけでなく音楽家の方の良い一面を発見できる機会であり、私はもっと音楽が好きになりました。

Public opinion

40代 女性

心身ともに干からびていこうに感じっていますが、ネットで過去作品や役者さんたちがアップする動画を楽しむことができるのは今の時代だからこそなのかな、と。ネットを通して文化芸術への関心が高まり劇場に足を運ぶ人が増えたらいいですね。私も早く「生」の舞台が観られる日がくることを楽しみにしています。

Public opinion

30代 女性 会社員

昔、病気療養中あまりの辛さの中、気を紛らわせるため差し入れられた舞台のDVDを観た。「ああ、これを生で観るまで死ねない」そう思った時に、身体がふっと楽になった。今では観劇のために遠征ができるほどに。あの時、「もう一度生で舞台を観たい」と思えたことが、今私がここに生きているきっかけだったと思っています。

Art for us

いま改めて思う、
私たちにどってのアート

～舞台芸術をめぐるそれぞれの捉え方～

Music / Live / Performing Arts

Public opinion

50代 男性

ちょっとしたきっかけで観る側から演じる側となった自分。観てくれるみなさんの笑顔や手拍子が、自分達演者に勇気と力を与えてくれ、それが病みつきになって10年の月日が流れた。コロナによって直接触れ合うことができなくなり、より一層みなさんの前でパフォーマンスをすることで笑顔と元気を届けたいと切に願う。

Public opinion

60代 女性 会社員

私が参加した、ストリートパフォーマンス「赤シャツダンス」では、それぞれ違った人生を歩んだ人々が一堂に集まり、一つの目的に向かって協力し合います。芸術活動にはそんな「人と人を結びつける力」と「出逢った人々に笑顔の花を咲かせる力」があると私は思います。その時の絆は今でも大事な宝物です。

Public opinion

50代 女性 看護師

世界中で有名なアーティストが、無償で動画配信をされています。凄い事だなと思いますが、やはり、劇場で生の舞台を観たいと強く感じます。表現する場があり、つくる人がいて、受けとる人がいる。当たり前で、簡単に思っていた事が、とても希少で難しく貴重な事であったのだと強く実感しています。

Public opinion

50代 女性 主婦

芸術に直接触れる機会が減ってしまい、悲しいです。期間を延ばして複数公演にするなど、出来るだけ芸術に触れる機会が増えると良いですね。また、ネット配信になる場合は、どのようにしたら会場と同じ臨場感を味わえるかが今後のポイントだと思います。中止になった公演がまた叶う日まで頑張ります。

Public opinion

50代 男性

みんなで踊る時間を喪って考えたこと。密接、密集。今まで当たり前が当たり前じゃなくなった世界。オンラインでのパフォーマンスもやってみたけど、やっぱり一緒に空間を共有するのは敵わない。だけど世界は確実に変わってしまった。簡単に密接、密集できない世界でのパフォーマンスて一体？本当に悩ましい。

地域とアートとのステキな関係



座って踊るGiradance PV撮影の様子



小学校でのGiradance振付ワークショップの様子



運動会でGiradanceを踊る三郎丸小学校



Twitter企画「#Giradance踊ってみた」投稿動画より

【 枠を超えて広がる、応援する楽しさと喜び 】

地域のアートレパトリー創造事業 北九州芸術劇場×Giravants北九州「Giradance」[振付:近藤良平(コンドルズ)/音楽:吉田トオル]

地域に根差し・地域に残る作品づくり

市内の企業や団体、そして国内外の第一線で活躍するアーティストと劇場が協働し、地域に根づく作品づくりを目指す「地域のアートレパトリー創造事業」では、これまでに「リバダン!!」(リバーウォーク北九州)、「そらダン」(スターフライヤー)、そして「Giradance」(Giravants北九州)と、3つのダンスが生まれた。

2016年度に誕生した「Giradance」は、全国的にも珍しいサッカークラブチームと劇場との協働による取り組みである。広く市民生活に根付いてほしいと、老若男女を問わず誰もが楽しく応援でき、運動会や地域のおまつり等でも踊ることができるものを目指し制作された。

誰かを思い浮かべ踊る

スタジアムの外へ拡げていく活動として小学校でのワークショップも実施し、そこから運動会などで踊られる動きにも繋がった。子ども達には、ただ踊るのではなく「応援したい人やものを思い浮かべて踊ってみよう」というテーマを投げかけた。すると「応援したい人の顔が

浮かんで大きな声で「ギーラ!!」って言えた」「キラキラした笑顔がたくさん浮かんで自分も元気になった」といった反応が得られ、ダンスによる高揚感と、応援というメッセージが結びつくことから広がる可能性が強く感じられた。

昨年秋のGiravants北九州J2昇格を機に、「こどもが主役の応援ダンス」をコンセプトに新しい「Giradance」プロモーションビデオ(以下、PV)制作の動きもスタート。今年3月に予定していた撮影には、予想を超える申込が殺到したが、新型コロナウイルスの影響で大人数での撮影は断念せざるを得なくなる。しかし、中止の決定を伝える中、応募者からの「またいつか実施してほしい」といった声に劇場担当者はエールを受け取ったという。

共鳴した想いが、拡がりを生んで

実は元々、子ども達によるPV制作と並行して構想されていたのが、座って踊るGiradanceのPV化。「スタジアムで座って観戦するファミリー、カップルなど、もっと色んな方にGiradanceを楽しんでもらえたら」という劇場担当者の想い、また「自社で取り組んでいる地域密着事業の一環

として、介護予防にGiradanceを活用できないか」というGiravants担当者の想いが重なり、「Giradance」の新たな一歩として、「座って踊ろうGiradance」が生まれた。現在、PVと振付動画が劇場公式YouTubeで配信されており、5月には～#Giradance踊ってみた～と題したSNS連動企画も実施。Giravants北九州 事業本部 副本部長 平原潤さんは「大きな声を出すと、それだけで気持ちいいですね。なかなか人に会えない今だからこそ、Giradanceのワークショップで子ども達が教えてくれた、「逢えない人のことを想像して応援する、するとその人を近くに感じたり自分も元気になる」という気持ちを、一人でも多くの方に味わってもらえたら」と語る。

大切な誰かを、そして自分自身を応援すること。「まちをあげてサッカーを応援する文化をつくりたい」というテーマのもと生まれた「Giradance」は、スポーツやアート、文化の枠を超えて、家族や地域の絆を一層深め、人と人が支え合うこのまちの未来へと拡がってゆくのかもしれない。

文/後藤 暢子

STAGE

北九州芸術劇場

その他の
ラインアップ

scan here →



MUSIC

北九州市立響ホール



響ホール

国際音楽祭

8/23(日) 一般発売

ケムリ研究室 no.1「ベイジルタウンの女神」

KERA・緒川たまき、新ユニット結成!

強力な話題のキャストが集い、「ケムリ研究室」の立ち上げを華々しく飾る。

DATA

●日程 10/9(金)18:30、10(土)12:30-18:00 ●会場 中劇場 ●作・演出 ケラリーノ・サンドロヴィッチ ●出演 緒川たまき、仲村トオル、水野美紀、山内圭哉、吉岡里帆、松下洸平/尾方宣久、菅原永二、植本純米、温水洋一、犬山イヌコ、高田聖子 ほか ●料金 一般¥8500、ユース(24歳以下)¥4500



7/1(水) 一般発売

東アジア文化都市2020北九州 連携事業
2020北九州国際音楽祭

マイスター・アールト×ライジングスター オーケストラ

コンサートマスター/篠崎史紀

希望にあふれた珠玉の時間を皆さまとともに

DATA

●日程10/3(土)15:00 ●会場 響ホール ●曲目 ベートーヴェン:ピアノ・ヴァイオリン・チェロのための三重協奏曲、交響曲 第5番「運命」 ほか ●料金 S席¥5000、A席¥3500、U-25(A席)¥2000



三浦興一

2019北九州国際音楽祭

8/30(日) 一般発売

「ヴォイツェク」

串田和美が
創造する新たな
クリエーション

DATA

●日程 10/31(土)14:00、11/1(日)14:00 ●会場 小劇場 ●原作 ゲオルグ・ビューヒナー ●脚色・演出・美術・出演 串田和美 ●出演 近藤隼、武居卓、細川貴司、寺田剛史 ほか ●料金 一般¥3500、ユース(24歳以下)¥2500



9/3(木) 一般発売

0才からの親子で楽しむクラシックコンサート

声を出して笑ったり、
泣いちゃってもOK!
赤ちゃんの心に、音楽の種を

DATA

●日程 12/5(土)11:30 ●会場 響ホール ●出演 中川賢一(ピアノ) ほか ●曲目 ドビュッシー:月の光 ほか ●料金 おとな¥2000、こども(0歳~小学生)¥1000、親子ペア(おとな1+こども1)¥2500



©Mika Oizumi

8/30(日) 一般発売

「ゲルニカ」

未来の為に戦う人々の
珠玉の人間ドラマ

DATA

●日程 10/31(土)18:00、11/1(日)13:00 ●会場 大ホール ●作 長田育恵 ●演出 栗山民也 ●出演 上白石萌歌、中山優馬、勝地涼、早霧せいな、キムラ緑子 ほか ●料金 S席¥9500、A席¥6500、ユース(24歳以下)¥4500



1 ONE COIN!
500

響ホールワンコインコンサート

平日お昼の45分間、ワンコイン500円でクラシック音楽をカジュアルに楽しもう!

発売中

7/30(木) 一般発売

vol.22 廣田美穂(ソプラノ)

vol.23 朝永侑子(ハープ)

●日程 8/5(水)11:45

●日程 11/26(木)11:45

●会場 響ホール ●料金 ¥500

※掲載情報は6/15(月)現在の情報です。※公演日程など変更になる場合があります。
※公演に関する詳細や各種チケットの購入条件などにつきましてはHPをご覧ください。

ふらここから

575で感じる季節のいろいろ

俳句=村田もも子 イラスト=刈屋さちよ

夏雲の余白もつかう
手紙かな



人との交流が、自分にとってどれほど大切か再確認した今年。久しぶりに手紙を書いた人も多いのではないだろうか。伝えたいことが多くて、便箋の余白にまでかかれた文字やイラスト。手紙をだす人もらう人どちらの頭上にも青空が、そして真っ白な雲が大きく湧き上がっています。

PROFILE

村田もも子／古本や檸檬店主。檸檬句会運営。春に店を改装、リニューアルオープンしました。居心地いいか飼猫が店に入り浸っています。可愛いから困る。

刈屋さちよ／イラストレーター。小学校が休校なためずっと娘といる生活で、娘のおしゃべりが寝る瞬間までうるさく、なぜか猫まで負けじとおしゃべりになってきました。やかしめいです…。

INFORMATION

① オンラインチケット



<https://www.e-get.jp/kimfes/pt/>

② 電話(主催事業のみ)

北九州芸術劇場
TEL 093-562-8435
(10:00~18:00/土日祝除く)

響ホール音楽事業課
TEL 093-663-6661
(9:00~18:00/土日祝除く)

③ 窓口

北九州芸術劇場プレイガイド
(リバーウォーク北九州5F Q-station内)
(平日 11:00~18:00、土日祝 10:00~18:00)

響ホール事務室
(9:00~18:00)

SNSで楽しむ 北九州芸術劇場 & 響ホール

北九州芸術劇場・響ホールのSNSでは、公演情報はもちろん、アーティスト活動情報、また毎日の何気ないつぶやきを配信中。いつでも気軽に舞台を感じる事ができる動画コンテンツもアップしています。響ホール公式 YouTube チャンネルも間もなく開設予定!ぜひチェックしてみてください!

北九州芸術劇場 KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER



Twitter



LINE



YouTube



入社2年目女子の等身大な働きぶりや、なかなか見れない劇場の側面などこっそりお楽しみください!

北九州市立 響ホール HIBIKI HALL

2020 北九州国際音楽祭



Twitter



Twitter



北九州芸術劇場 KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11
リバーウォーク北九州内
TEL 093-562-2655(10:00~18:00)



北九州市立 響ホール HIBIKI HALL

〒805-0062 北九州市八幡東区平野1丁目1-1
国際村交流センター内
TEL 093-662-4010(9:00~18:00)

